

# 秋山和慶

# 人生は各駅停車で

## 第8回

ハリウッドの作曲家たち

日本とバンクーバーを行き来するとき、飛行機の中でも映画を観ています。特に好きなジャンルはないんですが、みんなが「面白い」と言うものは全部観たいからです。

映画のタイトルを見るとテーマ曲のメロディが思い浮かぶくらい、映画音楽はどれもインパクトがありますよね。なかでも洋画のフル・オーケストラを使ったダイナミックなサウンドは魅力的です。そんな映画音楽を、北米のオーケストラは定期的開催するポップスの演奏会で演奏しています。僕がいたバンクーバー交響楽団では、ヘンリー・マンシーニ、ジョン・ウィリアムズ、バート・バカラックといった作曲家本人がほとんど毎年来て指揮していました。3人の素顔を少しご紹介しましょう。

ヘンリー・マンシーニさんはエンターティナーそのもの。背が高く、やはりハリウッドの人ですね、外見もライフスタイルも華やかでした。そしてピッコロがとても上手なんです。演奏会では、「ハタリー」の

小象の行進などピッコロソロの箇所になると、タキシードの内ポケットからサツと楽器を取り出して、指揮台から客席を向いて吹いていました。その姿はともかくよかったです。演奏会後は私の家で、明け方まで賑やかに飲み明かしたこともあります。

ジョン・ウィリアムズさんは、とてもまじめな方です。クラシックのオーケストラのサウンドも追求なさっていて、クラシックの交響曲も指揮したがつていました。「スター・ウォーズ」を聞けばホルストの「惑星」がモデルだとわかりますし、彼の作品はコルンゴルトやラフマニノフなどの響きとも似ているので、そういった作曲家のオーケストレーションをよく学んでいるんだと思います。

バート・バカラックさんはとても気さくな人です。ジャズ・マンとしてのひらめきや勘は、うらやましいくらいでした。クラシック音楽は、ある様式のなかで、作曲家がいかに自由に自分の思いを描い

ていくかが腕の見せ所です。しかし映画音楽は、様式は自由。作曲家は、映像に合った、映像がより効果的に人の心に届くような音楽を作ります。そんな映画音楽のスコアにも、作曲家の個性がよく表れています。マンシーニさんらしさは、4本のホルンのハーモニー。曲の背景から絶えず聞こえるこの響きが、マンシーニ・サウンドの秘密なんです。武満徹さんも何十本も映画音楽を書いています。いずれもオーケストレーションが色彩的で、打楽器の使い方も特徴的な、タケミツ・サウンドがします。

無声映画の時代から、映像に合わせて劇場で音楽が演奏されてきました。映画と音楽は、映画が誕生した当初から、切っても切り離せないものなのです。



秋山和慶 ©川村悦生  
1941年生まれ。64年2月に東京交響楽団を指揮してデビューのち音楽監督・常任指揮者を40年間務める。東京交響楽団桂冠指揮者、ミュゼザ川崎シンフォニーホール・チーフアドバイザー。

ホールアドバイザー 秋山和慶 & 佐山雅弘 企画

## オーケストラで楽しむ 映画音楽IV

4月13日(土) 15:00開演

●指揮:秋山和慶 ●ピアノ:佐山雅弘 ●ナビゲーター:中井美穂  
●特別ゲスト:久石 譲 ●東京交響楽団

友の会 先行発売日 1/8 火

ロッキー／慕情／エデンの東／ジャイアンツ／アラビアのロレンス／007メドレー／ニュー・シネマ・パラダイス  
特別ゲスト/久石譲を迎えて ベニスに死す／ハウルの動く城／東京家族／HANA-BI／紅の豚 ほか

【友の会料金】S ¥5,400 A ¥4,500 B 3,600 C ¥2,700